



MEDICA/COMPAMED 2015

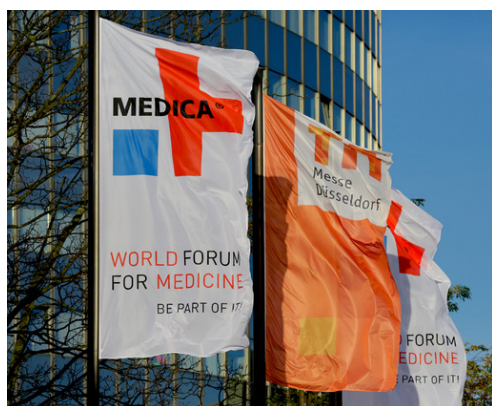
ファイナルレポート

新しい会期で開催の両展への反応はポジティブ

医療コスト削減につながるデジタル化、ネットワーキング、ウェアラブルに注目

今年より月～木曜開催へと変更になった世界最大の医療機器展 [MEDICA](#) と、同じく会期が4日間で完全同時開催となった医療機器製造、部品展の [COMPAMED](#) は、多数の業界専門来場者より支持され、11月16日～19日まで、ドイツ、デュッセルドルフで開催された。

「全日平日開催となり、使用する19の全てのホールには多数のビジターで賑わっていた。この会期設定により、参加者は訪問日のオプションが増えた」と主催者メッセ・デュッセルドルフの取締役、シェーファーはコメントした。



今回のビジター数は120か国から約130,000名を数えた（前回2014年：128,500名）。そのうち50パーセントはドイツ以外の国からの来場で、特に米国やラテンアメリカ、イランをはじめアラビア語圏からの来場が目立ち、MEDICAは今回も世界中から来場者が参加した。加えて投資や購入に関する意思決定権に関わる来場者の比率が96%であったことは、MEDICAが国際的な商談の場であることを裏付けた。ビジターの業種は変わらずディストリビューター、バイヤーを中心に病院、ラボ、クリニック関係者からメーカー、保険会社など、幅広くメディカル

分野をカバーしている。出展者数は今回初めて5,000社を数え（70か国）、出展者はビジターに対し、自社製品のプレゼンや商談を行った。

医療機器のデジタル「革命」は患者のメリット

MEDICAのビジターは多数のイノベーティブなデジタル化された医療機器を目にする機会を得た。これらデジタル機器は既に病院、クリニックなどで使用されているものだけではなく、進化したウェアラブルであったり、いくつかのヘルスケアのアプリを組み合わせ使用できるものであったりと、将来的にネットワーク化され、患者にメリットを貢献する新製品であった。例えばフィットネス・トラッカーやインテリジェント・グラス、ヒアリング・デバイス、身体データを継続的に集積するインテリジェント・パッチなど、多様なデジタル機器の最新トレンドにも注目が集まった。

同時開催 COMPAMED への注目度は年々高く

MEDICA と同時開催となる COMPAMED は 24 回目の開催となり、4 日間の完全同時開催となった。同展は近年、医療機器製造のサプライヤー、加工業者の主導的展示会としての地位を確立し、出展者も 779 社と過去最高を記録した。同展は医療機器、製品に必要なハイテクなソリューション、部材、加工技術を有する出展企業が、ホール 8a、8b にて、来場する 18,800 名のエンジニア、開発担当者らを対象に「製造」や「開発」に関する商談を行った。医療機器の生産、販売のスタートである、部材選定、開発、試作、完成品までのプロセスが COMPAMED で熱心に話し合われた。



日本出展企業は出展者数のみならず代理店開拓や受注も増加

日本企業の出展者は今年、MEDICA,COMPAMED を合わせ [160 社 \(MEDICA 99 社、COMPAMED 61 社\)](#) と、昨年の 140 社を上回る過去最高の出展者が参加し、各社ブースで商談や製品のプロモーションを行った（欧州などからの日系現地法人出展は上記とは別に 32 社出展）。そのうち、株式会社 Hadeco（川崎市）は 30 回目を迎える MEDICA 出展を達成した。ジェトロや神戸市が今年もパビリオンを設置、COMPAMED では、ひたちなか市、長野県、信州、大田区、福島県、さいたま市に加え、浜松市が新たにパビリオンを設置し、関連メーカー、取引メーカーの出展や商談をサポートした。

ジェトロが設置したジャパン・パビリオンには、海外への販路開拓を目指す 23 の日本の中小企業が出展参加し、技術力の高い日本製品をジャパン・ブランドと位置づけ、顧客・代理店開拓のための商談を行った。

同パビリオンに参加した株式会社 OLPASO は「昨年に続き今年も出展させていただきました。昨年同様に販社開拓に取り組み、2 社と契約。大変有意義な展示会でした」とコメント。同じく同パビリオン参加企業から以下のコメントが寄せられた。

- * 「欧州に限らず幅広く多くの代理店の方とお話をし、また意見交換ができた。この規模の見本市ならではの結果だと思う」（株式会社レキシシー）
- * 「世界最大の医療の見本市で、例年通りの人の多さと、専門知識を持った決定権のあるバイヤーが多く、商談成約などの結果が得られた」（岩正織物株式会社）
- * 「今回二度目の出展になりますが、昨年より当社への来客は多かったです。また、興味を持って下さるお客様はほとんどが新しい物を求められている方ばかりでした」（株式会社エアサポート）
- * 「医療系の展示会としては規模、質ともに非常に充実しており、日本国内では得られない交流、情報収集ができた」（ライオンパワー株式会社）
- * 「ジェトロでの出展も 4 回目になるので、昨年から続けて訪問してくれた企業もいくつかありました。企業としての認知度も向上していると感じました」（株式会社 日本生物製剤）
- * 「昨年に引き続き、今まで取引をしたことのない市場（イラン、トルコ、中国、グルジア、ベラルーシなど）からの需要が多くあった。各国から参加者が集まる本展示会は非常に効率よく宣伝活動ができると考える」（株式会社 遠藤製作所）

神戸市のパビリオンには 11 社が参加したが、そのうち、株式会社グローバルエンジニアリングは「ブース来訪者から取り扱いたいと申し出があった。今後の商談で成果が出てくる可能性があるため、収穫ある出展となりました」とコメント。同じく株式会社 東鋼は「例年と開催曜日に変更され、客足も良くなっているように感じた。継続して出展していることもあり、商談も進みやすく感じた」と MEDICA 出展を評価した。



以下、単独出展の MEDICA 日本出展企業から寄せられたコメント。

＊「今年はブース面積と出展機種を大幅に増やしました。立地にも恵まれ、デモ実施効果と合わせて昨年の 2 倍以上の集客となりました。代理店希望も多く、世界へ OG Wellness ブランドをアピールできたことで今後のビジネスに期待しています」

(オージー技研株式会社：写真は同社ブース)

＊「4 日目（木曜）の訪問ゲストも少なくない。今回の開催曜日変更は成果ありと思う。新規顧客も増えており出展効果は高い」

(株式会社エクセルエンジニアリング)

＊「昨年の 2 倍程度の集客であった。また、今後、協力関係を築けそうな業社の訪問率が高かった」

(ゼオンメディカル株式会社)

＊「展示に興味を持ってくれる人も多く、有益な市場からのフィードバックを得ることができた。性能に関するコメントや、商材として扱いたいという声を多くもらった。具体的な話もいくつか浮上し、会期終了の翌週以降、打ち合わせすることになっている」

(株式会社ソシオネクスト)

＊「今年度は名刺の量よりも、いかに弊社にマッチした企業（代理店）であるか、質を見極めることに専念したところ、例年よりも有力な代理店候補が多くなった」

(株式会社 常光)

＊「昨年よりもブース来場者数は減った感じですが、1 社 1 社の商談内容が濃かったです。CE マーキング取得も間に合い、より踏み込んだ商談ができましたし、初めてコンタクトのあったオランダの同業者から、今後の協業をもちかけられ、会期後、急遽オランダへ出張することになりました」

(株式会社スミロン)

＊「4 日間とも開始の 10:00～18:30 まで 4 台の試乗機はフル稼働状態で、体験された方は約 1,400 名、1,308 枚のアンケートをいただくことができました。ほぼ大半は「初めて体験したけどすごく心地よかった」などポジティブなコメントをいただきました。また、今後の製品開発に参考になるコメントもありました。会期後 2 カ国を訪問して具体的な商談を行い、今後回りきれなかった 4 カ国のディストリビューター候補にも訪問予定です」

(ミナト医科学株式会社)

＊「安定して来場者が来た。新規開拓もでき、新たに注文も入った」

(株式会社ハーメック)

COMPAMED に初めてパビリオンを設置した浜松市（写真右）は「出展企業の満足度は高い」とコメント。

同パビリオンに出展参加した株式会社 オノックス エム ティー ティーは「ヨーロッパ市場の動向と、レーザー加工の可能性を確認できた。レーザー加工は関心が非常に高く、見積り依頼や『データをメール送信するので検討してほしい』などの問い合わせを多くいただいた」とコメント。製造・開発に特化した COMPAMED への評価が寄せられた。



COMPAMED は年々注目度も高くなり、来場者が増加するだけでなく、日本出展企業の成果も増加している。以下は COMPAMED 出展企業のコメント（出展者名の後に／がある場合、後者はグループ主催者名）。

＊「過去、切削加工部品のみの出展であったが、今回、世界初で唯一という、3D 画像モジュールを出展したところ、多数のお客様に興味をもっていただいた。具体的商品化に向け、顧客先の数社の開発責任者とミーティングを持ち、次のステップに進むことができた」

（株式会社 金子製作所／さいたま市）

＊「世界市場における品質や特に求められるスピード感を肌で感じる事ができた。また、出展しているドイツ企業から、代理店機能を持った商社やエージェントの重要性を学び、今後の課題となった」

（株式会社 華光／さいたま市）

＊「最高の成果を得た」（日進工業 株式会社／大田区）

＊「全世界の医療機器メーカーが出展している展示会としてビジネスチャンスを感じた」

（電装産業株式会社）

＊「決定権を持った人、職位の高い人が、本当に来場していることを実感できた年でした。出展 4 回目で、ようやく当初のコンタクトしたかった複数の相手のキーパーソンと直接話す事ができ、出展の効果があつたと考えています」

（シナノケンシ株式会社／信州）

＊「初出展であったが予想を上回る訪問者で、出展は非常に効果があつたと思います。人数不足で対応しきれない場面もあり、今後の課題も多く見つけることができた」

（新光電気工業株式会社）

＊「初出展で 1 品種のみの展示により、反応はないと思ったが、スキマ的技術の必要性により反応があつた。自社技術の再評価にもなる」

（株式会社シンテック／福島県）

＊「中国のメーカーから、図面及び 3D の提供約束ができ、見積りすることになった」

（株式会社 西野精機製作所／ひたちなか市）

＊「海外への医療販路開拓に一番適している展示会だと感じました。試作案件を 8 件頂きましたので、継続的に取引が出来るようしっかりとアフターフォローしていきます」

（共栄電工株式会社／長野県）

現地病院視察ツアーを今年も実施

MEDICA 会期 3 日目、11 月 18 日(水)、メッセ・デュッセルドルフ・ジャパンの[サービス ALLIANCE](#)メンバーである株式会社アイ・エム・アイが、昨年好評であった現地病院視察ツアーを今回も実施した。視察した病院は、デュッセルドルフより電車で約 1 時間、ボーフム市内にあるベアクスマンハイル病院。ボーフムは元々炭鉱の町で、ベアクスマンハイル病院は、炭鉱事故で怪我をした炭鉱夫の治療のために誕生した病院であり、リハビリに特化した大規模病院である。

当日は病院内の施設や設備の見学だけでなく、現場スタッフからの説明や、半年前まで歩行が不可能だった患者が、補助なしで歩行可能となったリハビリ成果の披露、また、ドイツと日本の医療現場の相違点、健康保険事情についてなどレクチャーも受けた。

また、ベアクスマンハイル病院は日本の **CYBERDYNE 株式会社**の身体機能を改善・補助・拡張することができる世界初のサイボーグ型ロボット、HAL®を早期から導入。脊髄損傷患者の治療回復に力をいれており、筑波大学大学院と共に脊椎治療関係の研究に取り組んでいる。HAL®は当院におけるリハビリ



(病院内を見学するツアー参加者)

リ機器の象徴でもあり、参加者も日本の医療機器輸出のドイツでの成功事例である CYBERDYNE の製品が、実際にドイツでリハビリに利用されている様子に深い関心を持った。また、このような最新機器が保険でカバーされているため、個人の費用負担が一切ないという点も参加者から驚きの声があがった。今回の現地病院視察ツアーも参加者から好評で、来年も開催予定。

両展は来年もデュッセルドルフで以下の月曜～木曜の 4 日間開催となる。

2016 年 11 月 14 日 (月) ～17 日 (木)

公式サイト <http://www.medica.de> <http://www.compamed.de>

日本語サイト <http://medica.messe-dus.co.jp> <http://compamed.messe-dus.co.jp>

㈱メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

担当：服部

〒104-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート 7 F

Tel.03-5210-9951 Fax.03-5210-9959 / mdj@messe-dus.co.jp www.messe-dus.co.jp